

## よろこびはだれに【小学校中学年】

1 **主題名** 仲間を守るきまり

**内容項目** C 規則の尊重

2 **ねらい** インターネットを介した学習から、インターネットでのルールを考えるを通して、約束やルールがあつてこそよりよい人間関係や集団生活が築けることに気付き、進んで守ろうとする態度を育てる。

### 3 展開例

	学習活動と主な発問	指導上の留意点
<b>導 入</b>	1 約束やルールについて考える。 ・私たちの学校や家庭、地域にはどんなルールがあるでしょう。どうしてきまりがあるのでしょうか。	・身の回りの約束やルールを確認し、約束やルールについて問題意識をもたせる。
<b>展 開</b>	2 教材「よろこびはだれに」を聞き、話し合う。 (1)新記録を達成した「わたし」はどんな気持ちになったでしょうか。 (2)「わたし」はタブレットに向かいながら、どんなことを考えているでしょうか。 (3)「わたし」は、先生の話を聞きながら、どんなことを考えているでしょうか。 3 自己を見つめ、振り返る。 約束やルールはなぜ必要なのか、今までの自分の生活を振り返り、今日の授業で考えたことを書く。	・努力の末の新記録達成に歓喜し、その喜びや感謝の気持ちをインターネットでも共有したい「わたし」の気持ちを共感的に考えられるようにする。 ・タブレットに書き込みながらも、ためらう「わたし」の葛藤を考えられるようにする。 ・タブレットに書き込みたい気持ちと書き込みをすることはいけないという相反する感情を表現できるように、心情の見える化や板書の工夫が考えられる。 ・ルールを守るとは、みんなが気持ちよく生活していくために必要だと気付いていく「わたし」の道徳的価値の高まりをより明確にする。 ・補助教材（埼玉県ネットトラブル注意報等）を使い、情報モラルにふれることも考えられる。 ・自分の経験を振り返り、今後の生き方について自分らしく表現できるようにする。（決意表明を求めない。）
<b>終 末</b>	4 教師の説話を聞く。	・児童が主体的に約束やルールを守り、生活していると思えるように余韻を残す。

### 4 教材作成の意図と取扱いの留意点

今まで以上に、授業においてインターネットを介した学習の場面が増えることが考えられる。児童には、情報には様々な権利があることを理解させるとともに、これらの権利を守ることの大切さを考えさせたい。

「きまりは守らなくてはいけない」ということは児童も分かっており、日常生活でも守ろうとしている。しかし、インターネットに関わる「権利」や「ルール」については、難しいものと思われる。さらに、「気付く」と「できる」こともまた別物である。インターネットの活用は、ルールの遵守なしでは成り立たない。一人一人がそのルールの意義や目的を理解した上で、それらを主体的に守り、よりよい集団や社会をつくっていくことが大切である。